



◆ 電文形式データ配信システムと大阪システムの更新について

地震・津波・火山データや気象警報・注意報データ等の防災に直結する気象関連データをリアルタイムに利用者に配信している当センターの「電文形式データ配信システム」は、平成 22 (2010) 年 4 月に運用を開始し、まもなく 6 年が経過します。

現在、本システムは順調に稼働していますが、構成機器の保守年限を迎えつつあり、故障の際の部品調達等に支障が生じてくる可能性があります。一方、気象関連データのオンライン利用者は予報事業者の枠を超えて拡大しており、安定的なデータ提供の重要性はこれまで以上に高まっています。

このような状況に鑑み、平成 28 年度に本システムの更新を行なうこととしています。

更新後の電文形式データ配信システムは、システム構成や基本機能、通信手順は現在のシステムを踏襲し各利用者の移行の負担を極力減らしながらも、近年配信希望者から要望が出ているセキュリティを強化した通信手順等の機能を追加するなどして、より広範な利用者に対応します。

新システムの設計には既に着手しており、平成 28 年度下期の運用開始を予定しています。

表：電文形式データ配信システムの概要 新システムと現行システムの比較

	新システム	現行システム
配信対象データ	電文形式データ	←
設置場所	気象庁本庁内 (東京都千代田区)	←
システム構成	デュプレックスシステム*1 (ホットスタンバイ)	←
緊急代替サーバ*2	あり	←
通信手順 (いずれかを選択)	・JMA ソケット ・FTP (Put 方式) ・SFTP または FTPS の採用 (Put 方式)	JMA ソケット FTP (Put 方式)
FTP 送信方式	リネーム方式 一時ファイル名は、ファイルの先頭に「. (ドット)」を付加	←
FTP 受信サーバの ホスト名対応	固定 IP アドレスの他、ホスト名でも指 定可能	不可。固定 IP アドレスのみ登録可
配信回線 (いずれかを選択)	・専用回線 ・VPN 網 (NTTcom Arcstar Universal One) ・インターネット (JMA ソケットはサポ ート外)	←
保守対応	24 時間 365 日	←
運用監視	24 時間 365 日	←

*「←」は、現行システムの機能等を引き継ぐことを示しています

*1 各機器はアクティブ/スタンバイの冗長構成です。機器に障害が発生すると、速やかにアクティブ/スタンバイが切り替わります。万一、配信サーバの冗長部にも異常が発生し切り替わらなかった場合、*2 緊急代替サーバを起動して配信を継続します。

また、電文形式データ配信システムとファイル形式データ配信システム (以上をあわせて「東京システム」と呼ぶ) のバックアップとして大阪管区気象台内に設置し、運用している「大阪システム」についても、新しい電文形式データ配信システムの運用開始後に更新を行なう計画です。

現在の大阪システムは東京システムよりも前に設計・構築されているために、配信機能等において現在運用している東京システムと異なる部分があり、利用者にご不便をおかけしています。今回の更新では、配信機能を東京システムと共通化し、利用者は東京システムと同じ手順でデータを受信することもできるようになります。

なお、これらのシステムの更新にあたっては、東京システムと大阪システムの業務アプリケーションを統一することなどにより、配信システム全体の調和を図り、運用性と利便性を高めることも目指しています。

(配信事業部)

